

## 広報広聴特別委員会行政視察報告書

期 日	平成29年10月24日(火)～25日(水)
訪問先	北海道帯広市
出席者	越智 一久 委員長、栗山 香代子 副委員長、瀧口 慎太郎 委員、 高田 浩 委員、寺岡 まゆみ 委員、山崎 由枝 委員、高橋 知己 委員、 沼田 幸一 委員、武藤 慎一 参事兼議会総務課長(事務局長の代理)
随行者	安藤主査
調査項目	地域意見交換会及びお出かけ意見交換会について
調査内容	<p>議会基本条例を制定する協議の中で、市民の多様な意見を吸い上げていこうとの議論があり、議会基本条例を制定したことを契機に平成22年から市民意見交換会を開催している。</p> <p>地域意見交換会は、10カ所のコミュニティセンターを会場に開催しており、22年から24年までは、1年間で10カ所回っていた。25年からは、1年間で5カ所、2年掛けて10カ所回るような形に変更し、1年間で回る会場数を減らした代わりに、特定の団体と意見交換をするお出かけ意見交換会を始めた。</p> <p>地域意見交換会及びお出かけ意見交換会は、特定のテーマを設けずに実施しており、参加者からの多様な意見・要望を聞く場として開催している。出された意見については、各議員の活動の中で一般質問や委員会審査の際に取り上げるなどの活用を図っている。</p> <p>帯広市議会では、市民意見交換会を始める以前から、常任委員会が所管事項に沿って、さまざまな団体と意見交換会を実施しており、テーマを設けた意見交換会は従前から行っている常任委員会ごとで実施するなど、すみ分けがされているような状況である。</p>
主な質疑	<p>Q テーマを決めた方がいいとの意見はないのか。</p> <p>A 市民意見交換を所管している議会運営委員会の中では、テーマを決めた方がいいと言った議員と、テーマを決めることにより、意見を出す幅を狭くするなら、テーマを決めないで幅広く意見が出せるようにした方がいいとの議員がいた。全体の合意が取れず、現状のままとなっている。</p> <p>Q 地域意見交換会を継続している意味は。</p> <p>A 辞める理由は無いと思う。やらないよりはやった方が何かえられるかもしれないので、ずっと続けている。辞めるという選択肢はない。</p> <p>Q お出かけ意見交換会の中で、高校生とだけはワークショップ形式でやっているが、他に広げる考えは。</p> <p>A 何人参加していただけるかも分からない状態でもあり、今のところ参加人数が事前に分かる高校生だけで実施する考えである。</p> <p>Q 地域意見交換会で新しい取り組みをしているか。</p> <p>A 特にしていない。いろいろと課題はあるが、やり続けていくことが大切だということで、議会運営委員会の中ではまとまっている。</p>